

四万十市地域公共交通活性化協議会

平成21年3月23日設置



1. 地域公共交通の概要

四万十市は平成17年4月に旧中村市と旧西土佐村の合併により誕生した。本市は行政や商業施設等が集積する市街地エリアを少し離れると中山間地域を多く擁しており、車は移動手段として必携である。まして高齢者や学生など車を運転できないいわゆる交通弱者にとって、バスは大切な交通機関である。合併後の公共交通バス体系については未だ一体化が図られていない状況で、旧市村時代からのそれぞれの運行形態を継承している。

2. 地域公共交通の現況

中村地域内を運行する公共バスは、「高知西南交通(株)」が中心市街地を起点として放射状に市内循環バス20路線を運行している。このうち1路線は中心市街地3km四方間自由に行き来するデマンドバス「中村まちバス」が運行している。加えて交通空白地域解消のため民間団体への市委託による市有償運送バス(4路線)を運行している。

西土佐地域内においては、地域の中心エリアである江川崎地区を起点に放射状に各集落を結ぶ路線バスが、全て市有償運送バス(7路線:一部スクールバス有り)として(有)西土佐交通への委託により運行している。

3. 地域公共交通の課題

- ・地域人口の減少と急速な高齢化
- ・運行経費の増
- ・デマンドバス運行エリアの未拡充
- ・旧市村間のバス料金格差

4. 調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・移動実態、ニーズ把握調査

5. 地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・不採算路線を中心に運行車両の小型化や効率的な運行形態(デマンド型乗合タクシー等)への転換を図る。
- ・スクールバスを活用した一般乗客との混乗化を進める。
- ・停留所の改善、新規車両導入等の環境整備を実施する。
- ・デマンドバスシステムの再構築と運行エリアの見直しを図る。
- ・市民意識の向上と利用促進策を実施する。

